

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

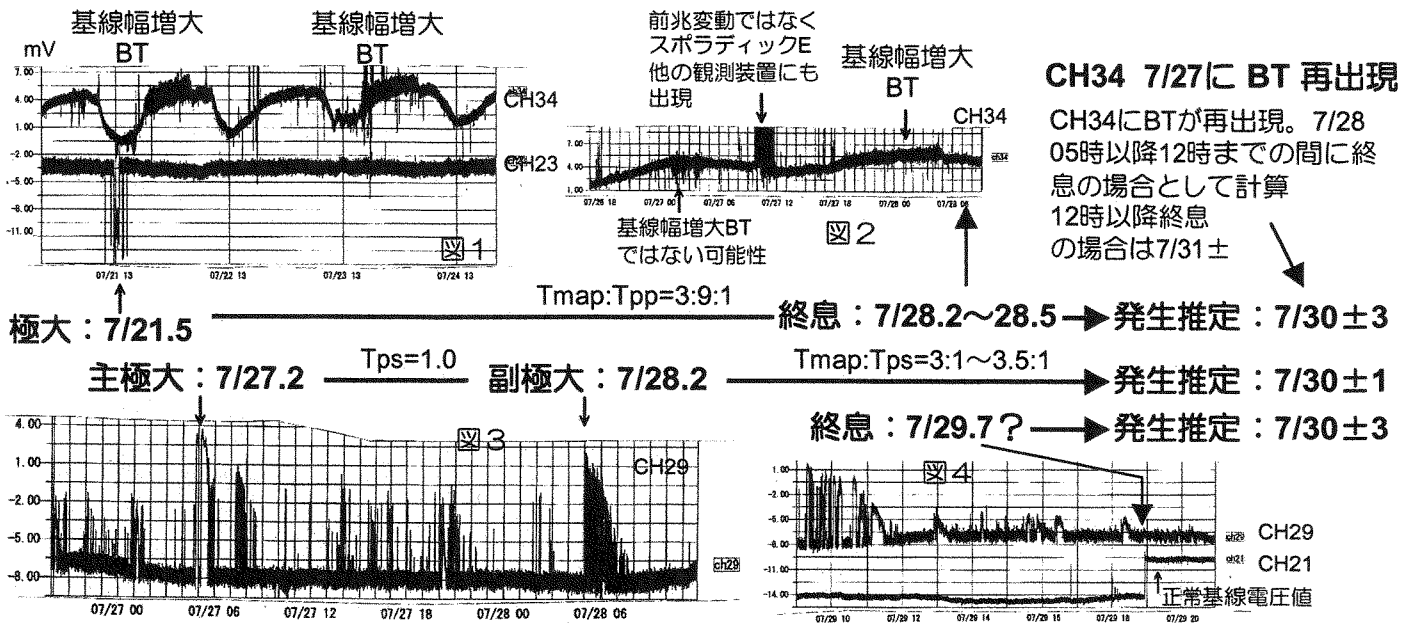
続報 No.304

2021.07/29 (木曜) 22:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778前兆 続報

地震発生推定=7/30 or 31 ←発生なき場合は発生時期のみ再考



No.1778長期継続前兆群の続報です。まず、前情報で報告しました八ヶ岳のCH34の基線幅増大BTですが、7/27の変動は(図2)一定の幅の増大ではないためBTではない可能性有。その後7/27の18時頃から明確なBTが出現し、翌7/28の朝、05時に終息しました。これ以降が7/21.5極大に対する前兆変動終息の可能性となります。また7/27.2ピークの八ヶ岳のCH29の特異変動は(図3)翌日7/28.2も大きく、副極大の可能性有。仮に7/27.2が主極大、7/28.2が副極大である場合は、主極大が鋭く、副極大が緩やかな形態のため、主~副極大間=Tpsとしたとき、Tmap:Tps=3:1近似(平均は3.7:1) Tmap:Tps=3:1~3.5:1で計算しますと、7/30±が示唆されます。さらに図4のとおり、本日7/29まで八ヶ岳のCH29の変動が継続出現。昼頃より変動が小さくなりだし、19時以降は静穏です。19時に八ヶ岳のCH21が正常基線電圧値に復帰しました。7/29.7終息では7/30±発生。これ以降CH29及びCH21に前兆変動が再出現した場合は、より先の発生となりますため、その後の前兆変動を観測して再考します。本日7/29夜20時前から若干CH34の基線幅が増大しているように見えるのが気になります。7/28に終息している場合は本日はBTが出現しないはずですが、従いまして、7/30 or 31 発生の可能性が示唆されますが、より先である可能性も僅かですが否定できません。7/30又は7/31に対応地震発生がなく前兆変動が継続していた場合は、発生はより先となりますので、観測データを鑑み再考し、続報させていただきます。本日朝時点でCH29の変動が継続出現していたため、本日の発生ではないことは明らかでしたが、本日一日のデータを見たかったため、21時半までのデータで本情報を作成致しました。(21時45分現在静穏継続中)



図5

- ◆推定領域: 図5太線内領域・斜線域参考
斜線域=浅間山・白根山等火山近傍
- ◆推定規模: M8. 0±0.3
M7クラス複合の可能性も若干有
- ◆推定時期: 07月30日又は31日 発生の可能性
8/1迄に発生無い場合は再考予定
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前09時30分 ±1 時間30分
または午後05時 ±3 時間